

令和7年9月26日

筑紫野市議会
議長 原 口 政 信 様

広報委員会
委員長 赤 司 祥 一

令和7年度 広報委員会行政視察研修報告書

広報委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

1. 視察日

令和7年8月5日（火）～8月6日（水）1泊2日

2. 視察先及び研修項目

○愛知県安城市	「議会だよりの編集について」	8月5日(火)
○愛知県稲沢市	「議会だよりの編集について」	8月6日(水)

3. 視察者

議 員 赤司 祥一 委員長、春口 茜 副委員長、山本加奈子 委員、楢木 孝一 委員、
佐々木忠孝 委員、吉村 陽一 委員
随行者 小金丸卓也 議事課主任

4. 内容 別紙のとおり

広報委員会 行政視察報告書

視察日：2025年8月5日～6日

視察先：愛知県安城市議会

視察日程：2025年8月5日

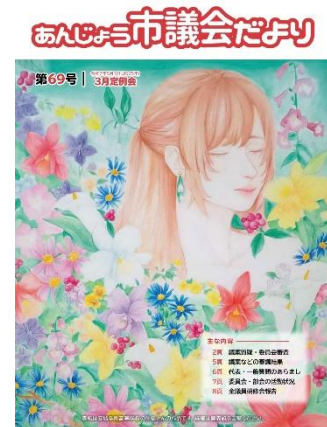
【視察目的】

安城市議会における議会だよりの編集・発行に関して、議員と事務局の作業の分担詳細、住民参加の取組、特に高校生へ表紙を任せている点について調査・意見交換をするため。

【調査項目と調査結果】

1. 議会だよりの概要について

- 発行回数：年4回（5月、8月、11月、2月）・・・基本的に筑紫野市と同様
- ページ数：基本的に16ページ・・・本市は16～24ページ
- 発行部数：80,200部
- 工夫：横書き・フルカラー（R2年3月定例会分より変更）



2. 編集体制とプロセス

- 議員は各自の一般質問原稿を作成。事務局が写真撮影・記事作成・校正作業を担当。
- 写真は議員自身からの提供または議事課が撮影。
- 編集委員（本市で言う広報委員）が予めどの議員の一般質問を受け持つか担当を決める。
- 一般質問終了後、2～3日以内に掲載項目を各議員が議事課に提出。
- どの議員が賛成したか反対したかの表は、全議員掲載すると場所をとるので、QRコードでまとめ、会派毎だけ紙面に掲載。
- 七夕議会と銘打って法被を着て撮影をし、議会だよりに載せている（市民への親近感）
- 高校へのインタビュー時間は1時間程度→事務局が担っている。

3. 高校生への表紙依頼について

- R元年3月定例会号から開始。市内7高校に順番に依頼して作成
- 平成28年に公職選挙法が改正され、18歳以上に選挙権が与えられることになり、若年層の有権者にも関心を持ってもらう内容にすべく高校生に関わってもらうようになったという経緯
- 元々、人物写真には肖像権の問題があったり、植物や風景は季節感が必要だが発行タイミングと撮影タイミングが合わないという問題があったため、それも解消された（本市も抱えていた問題）
- 高校生コラボ開始に至るまで、『表紙検討チーム』というチームを結成し、そのチームで何度も会議を重ねて方針や運営方法などを決めていった。

【質疑応答】

Q：名前を載せる承諾は？

→写真や音声を撮る時に承諾を撮っている。記事を印刷する前に高校にも送ってみてもらっている。保護者の方までは承諾を撮っていないが、先生は同席している。

Q：R2年に全ページ横書きフルカラーにした経緯は？

→市の広報誌を横書きフルカラーにしたからそれに合わせた。発行頻度を月2回から1回に変更するとともに見やすくした。

Q：選挙権が18歳になったことで高校生に表紙を書いてもらうことになったが、顕著に選挙への関心が増えたかどうかのデータはあるか？

→アンケートなどは取っていないが、議員が身近に感じられるようになり、何をやっているかが分かるようになり、興味がわいたという生徒はいた。校内の掲示板に張ってもらったりもしている。

Q：安城市議会の副議長が発信しているとのことだが、WEBでの発信の概要は？

→写真は事務局が撮って、文章だけ副議長が作り、FB発信をしている。いろんな議員に頼むと意見がまとまらないから。副議長は全委員会に参加しているからというものもある。

Q：議案質疑・委員会審査の質疑選定は広報委員？なぜ？

→広報委員に一任されている。文句は言わせないという風土がある。

Q：誰の一般質問を担当するかは最初から決めていた？

→1年ごとに編集委員代わるため文句は言われたい。ランダムに決めている。

Q：一般質問の切り目が皆同じなのは不都合ないか？

→一般質問の順番自体を4番目以降くじで決めており問題ない、1～3番目は最大会派から順に毎回決まっているため、その点も文句は出ない。

Q：1～3回目の編集委員会のやり方と所要時間

→長くても1時間程度。事務局と執行部ですり合わせた上で編集委員（広報委員）へ下りてくるため早い。

Q：表紙作成者へのインタビューをやって良かった点は？（対談方式で）

→日程調整は確かに事務局がとても大変ではある。しかし直接高校生から意見を聞ける場というのが貴重。出ていただく生徒さんは美術部に限らず誰でもOK、高校側が選ぶ。

Q：自校のPRに特化した号と、イラストや漫画風などそうでない号があるが？若者の作風が感じられるものという指定を満たせばOK？高校PR・漫画風以外の号もあった？

→美術部に任せると決めている学校もあれば、次は写真部等色んな部活に依頼しているところもある。

Q：一般質問の文字数制限は？編集発行要領に載っている？

→400文字前後。題目数によらず1/2ページと決めている。写真は原則入れる。

Q：代表質問、どの会派も1ページだが？

→そう、時間も全会派同じに統一している。

【視察を通じて得た成果と今後の課題】

- 高校生への表紙依頼から学ぶことはやはり多かった。一方で、本市に比べると議員の負担は福なく、議会事務局の負担が多岐にわたるようも見えた。そのバランスを考えながら最適なやり方を改めて模索していく必要があると感じた
- 会派や一般質問の題目数に限らず平等にしている点は、本市と真逆の考え方であったが、先入観にとらわれていた部分もあったため、参考にしていきたい。

視察先：愛知県稲沢市議会

視察日程：2025年8月6日

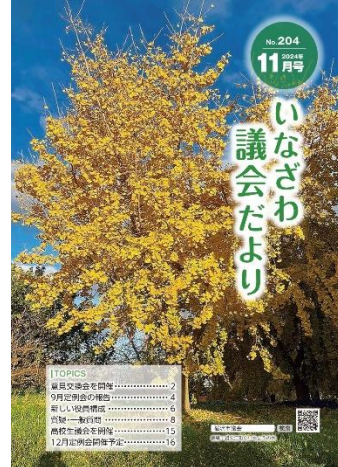
【視察目的】

稲沢市議会における議会だよりの編集・発行に関して、特に単価設定、編集体制、使用ソフトウェア、住民参加の取り組み、および障がい者への対応状況について調査・意見交換をするため。

【調査項目と調査結果】

1. 議会だよりの概要について

- 発行回数：年4回（5月、8月、11月、2月）
- ページ数：平均16ページ
- 単価：
 - 令和6年度～令和7年5月号まで：1ページあたり1.03円（ワード・エクセル使用）
 - 令和7年8月号以降：1ページあたり0.9円（Adobe InDesign導入）
- 単価には校正・印刷費の他に、イラスト作成料（R6～R7.5までは1点あたり1,000円）や差込み・納品に関わる費用が含まれる。Adobe InDesign導入後、イラスト作成料は不要となった。



2. 編集体制とプロセス

- 議員は各自の一般質問原稿を作成。事務局が写真撮影・記事作成・校正作業を担当。
- 写真は議員自身からの提供または議事課が撮影。
- Adobe InDesign導入により、イラストや写真の配置が容易になった。
- 編集スケジュールは一般質問終了後2営業日以内に掲載項目を議事課に提出。議員と密に連携を取りながら原稿案（質問内容を中心に議員がまとめたもの）を作成。
- 委員会では掲載内容を最終確認し、構成を決定。自由形式で縛りがないため、打ち合わせ時間も短縮されている。
- 今後はレイアウトの習熟が課題。

3. 住民登場企画の取り組み

- 表紙の写真撮影は事務局担当者が市内行事に参加し、住民の了承を得て撮影・掲載。
- 議会報告会・意見交換会を年に各1回開催し、参加者の写真やアンケート結果を議会だよりに掲載。

4. 障がい者への対応

- 市広報誌では視覚障がい者向けに「声の広報いなざわ」を作成し、デージーCD・カセットテープによる情報提供を実施。ボランティアが運営し、市としての費用負担はなし。
- 今後、議会だよりでも同様の障がい者対応を検討していく方針。

【視察を通じて得た成果と今後の課題】

- Adobe InDesign導入により編集の柔軟性が向上、経費削減にも成功しており、筑紫野市においても導入検討の価値がある。
- 住民とのコミュニケーション向上のため、直接取材等を含む企画の検討が必要。
- 一般質問掲載において、質問項目ごとの文字数を枠で検討することも視野に入れたい。
- Adobe導入により、見出しの色や質問背景の色付けなど視覚的改善が可能であり、市民が見やすい編集方法に感銘を受けた。筑紫野市との比較を通して違いが明確になった。

今回2市の視察で、インタビューや学校掲示など具体的なヒントを得た。両市ともに最初の原稿案は事務局が作成していることも分かった。事務局の負担を増やすことに関しては慎重にならねばならないが、広報委員・議員・事務局・執行部の議会だよりへの関わり方を先入観にとらわれずに見直す機会になった。「どうすれば市民が見たい市政報告になるか」を優先し、市民との関わりを深めるため、例えば『街中取材』や学生向けの取材など、インタビュー手法の改善を進めたい。高校生への表紙依頼については6年間のノウハウを持っている安城市から色々学べたため、今後の本市の高校依頼への参考にしたい。Adobe導入など稲沢市の市民視点を重視した取り組みに深く感銘を受けた。しかしこれも事務局職員に負担がかかっていた点が大きく、ソフトを使える職員しか作れないという属人化が見えたため、慎重な検討が必要。

以上